日本勤労者山岳連盟・静岡県勤労者山岳連盟

裾野麗峰山の会 (sine１９９４)

第２３期・４巻　２０１７年７月号　ＮＯ．１９５

仲間と仲間を結ぶ機関誌

れいほう

Susono Reihou Alpine Club

山行ＮＯ．１７４１
０６月１１日（日）雨飾山

イ・７月度・例会報告　　**７月２日（日）生協会議室１５：３０～１６：３０**

１．会議報告なし。
２．入会動機報告書・・・県連組織部の入会動機報告書を提出。
３．会名表示ワッペン・・・県連組織部のザック・帽子等に付ける、会名ワッペンを作る。
名刺大。富士山の絵柄に会名を乗せる。１ヶ＝２００ーくらい。
経費は会負担。加藤担当。

ロ・山行実績

１．０５月２７日（土）	全国清掃登山＝蓬莱山～越前岳＝４名
２．０６月０３日（土）	乾徳山＝２名
３．０６月１０日（土）～１１日（日）	白馬大雪渓・雨飾山＝８名
４．０６月１８日（土）	御坂＝節刀ヶ岳・北尾根～鬼ヶ岳・北尾根＝１名
５．０６月１８日（土）～１９日（日）	有明山（表参道～裏参道）＝１名ほか
６．０６月２３日（金）～２４日（土）	本沢温泉～硫黄岳～横岳＝４名
７．０６月３０日（金）～０７月０１日（土）	乗鞍岳＝雨中止

ハ・今後の予定

１２月２８日（木）～３０日（土）	仙丈ヶ岳・小仙丈尾根（リベンジ山行）
１２月０２日（土）～０３日（日	女性と全国登山集会＝国立女性教育会館
１１月１９日（日）	東部ブロック交流ハイク＝天城・八丁池
８月	猛暑の為、個人山行
０７月３１日（月）～８月７日（月）	夏山・２＝北海道・幌尻岳、アポイ岳、札幌岳、後方羊蹄山ほか
０７月２８日（金）～２９日（土）	夏山・１＝金峰山
０７月２４日（月）	愛鷹連峰地域研究協力
０７月１５日（土）	夏山訓練
０７月０９日（日）	第三回・理事会
０７月０８日（土）	富士山＝宝永山２３５２ｍ峰

二・その他

全国連盟の遭難対策保険外の保険に入っている方も、会に山行届は、提出して下さい。

ハ・山行報告

山行番　ＮＯ．１７４１　　文・室伏、後藤　　写真・室伏、後藤
日　時　２０１７．０６．１０（土）～１１（日）
山　域　姫川源流・白馬大雪渓・青鬼集落
コース　長泉・新Ｋサトウ発５：００ー御坂峠ーー宮御坂 IC－安曇野 IC－姫川源流・親海湿原９：０４ー猿倉１０：２８—白馬大雪渓１１：２８ー猿倉（昼食）—青鬼集落１２：３５ー雨飾

山荘―雨飾山登山口１５：３０（泊）

参加者　　後藤、室伏、合谷、峰田、加藤、長谷、星、田内（ゲスト）

出　発　　AM５時出発、新Ｋサトウ・三島駅・納米里⑺・裾野市役所を経由し６名（G 車）乗車する。
（K さんＨさんはＫ車にて出発安曇野道の駅で合流予定）
御殿場を経由し御坂峠―中央道－長野道―白馬雪渓猿倉に向かう。

姫川源流・親海湿原散策

途中、佐野坂峠の姫川源流・親海（およみ）湿原を約１時間散策する。湿原にはカキツバタ咲き競い、木道から離れたところのレンゲつつじの赤紫の花が目を引いた。
姫川源流は国道際に水が湧き出て水質もよいことで日本名水百選にも選ばれている。(柿田川湧水と比較すると・・・）湧水近くには梅花藻が水面に白い花を咲かせていた。
このころはまだ雨は降っても少し、降らない時間のほうが長かったが？

杜若（カキツバタ）

姫川源流碑

親海湿原

黄色杜若

青鬼集落（あおに）散策

午後１３時ころ集落に着き、集落駐車場も小雨、標高が下がった分か、雨脚は弱まる？
残念なことに、今日の雨模様で本物の白馬も、棚田に映る白馬も、視界悪く見ることはできない、集落の茅葺家屋の屋根がトタンで覆われ茅が何も見えないのが残念。
お善鬼の家（無人）が解放されていて内部も見ることができたが、私が知っている（子供のころに住んでいた）茅葺家屋より屋根が、寒さの違いか厚いように思われる。

青鬼集落

ＡＬＰＳは見えない・・・

雪どけサイダー

白馬大雪渓

次に向かったのは、雪渓入口の猿倉、猿倉の山小屋葉営業していない。

到着時はまだ小雨、支度し１時間強の道、雪渓を目指す、予定では山野草の種類が多く、花を観賞する山行になる予定が雨で視界も悪く、周りを見る余裕もなく雪渓に。

少し行くと林道の際に 1m 程の高さの雪が残り､下の河にはスノーブリッチならぬスノートンネルを、このような景観は初めての事、1 時間ほど登ったところで、先行車の K さん H さんに会う、

雪渓で待っていたが、寒くて下山してきたとのこと、このまま下り、猿倉で待つことに。

この頃は雨脚も強くなり少し気がめげるが、10 分程で雪渓下部に到着す。

上を目指すが気温も低く雨脚強く、引き返すことに（当初の計画通り）、雪渓の中記念写真を撮り、猿倉を目指し下る。途中ザゼン草を見つける。

猿倉の営業していない山小屋に８人そろい、屋根の下、休憩所で昼食をとる。

昼食後、8 人車２台で青鬼集落に。

猿倉山荘

山荷葉（サンカヨウ）

二輪草

衣笠草

今年は残雪が凄い

天気が・・・白馬岳見えず

宿泊場所

日程を終了し、宿泊地に、途中テン場の候補を 2 か所チェックし、雨傘山荘に到着。
宿泊者 4 名を降車、テン泊者 4 名と雨飾山登山口周辺を目指す。
登山口に到着､雨脚強くなり屋外のテン泊は避けたい心境に｡雨飾山キャンプ場の建屋見え、キャンプ場の施設に泊まらせてもらえないか、交渉に出かける。キャンプ場職員一人清掃作業中、今日は開業準備に来ていたとのこと宿泊は許可できないとの返事、
ここからがＫさんの独壇場、交渉成立、施設の一部屋根の下にテント張ることを黙認してもらうことに、フラットな床にテント張る、寒さ、雨を避けることができ快適な空間が、時間

は早かったがＫさんが、夕食の準備、他の３名は食すだけ、美味しくいただきました。
１９時頃から就寝、明日に備えます。

雨飾高原キャンプ場管理棟

山行NO　　ＮＯ．１７４１　　文・写真　後藤
日　時　　２０１７．０６．１１（日）無風・快晴
山　域　　頸城山塊・雨飾山（１９６３ｍ）
コース　　大海川登山口発５：１８－荒菅沢７：０７－黒沢尾根―笹平９：００－荒菅沢源頭―雨飾山９：２５～１０：０５－荒菅沢―登山口１３：１７－雨飾荘１３：５０～１５：００―長泉２１：１５
標高差　　上り　大海川駐車場約１１５０ｍ～雨飾山１９６３ｍ＝約８１３ｍ
　　下り　　〃
参加者　　Ｌ＝後藤、室伏、合谷、峰田、加藤、長谷、星、田内（ゲスト）

今年も白根葵に会えた

２日目
前日、１０日は大雨。しかも、気温が低く寒かった。
キャンプ場管理人に目をつぶって貰い、大海川登山口駐車場のトイレ中央部屋にテントを張った。
雨はしのげ、冬テント持参が功を奏し、暖かい夜で助かった。ただ、１１日は、放射冷却で相当冷え込み、朝は何と車のフロントガラスが凍っていた。
５時前、雨飾山荘泊（１３５００－）の女子４名を迎えに行き、６時前駐車場を出発。２～３名、早立ちの方は、既に出掛けた。天気は昨日の雨が嘘のような快晴。爽快な朝だった。
凍った歩道を進み尾根に取り付く。今年の上信越は、どこも雪が多い。
雨飾山も例外でなかった。
上り易いトラバース道をグングン上る。ブナが素晴らしい。ここのブナは何度見ても美しい。
荒菅沢手前の沢も雪が多かった。早朝は雪が硬いので慎重に上る
対岸の夏道が分からなく上り過ぎ少し藪漕ぎ。程なく荒菅沢。アイゼンを履く。
蒼穹に荒菅沢を象徴する「布団菱」が光っていた。
黒沢尾根に取り付く。例年、黒沢尾根に雪は殆どないが、今年は尾根左に可なり残っていた。雪に慣れない参加者はアイゼンを履いて上る。雪の上っ面は確かに柔らかいが、１０ｃｍ下は、カチカチの氷だ

った。

残雪・新緑・青空

荒菅沢

荒菅沢

そんなところを、アイゼンなし、ズック履きで上る若い衆もいて、「無謀」を感じた。
歓声が上がった。お目当ての「白根葵」が咲いていた。

白根葵

参加者の多くが、初めて見る花。見ることが出来て良かった。この花は、いつ見ても美しい。
我が、日本が誇る固有種。一属一種の花である。
急登をこなせば笹平。展望が凄い。背後の北には、頸城の山々。頸城駒、鬼ヶ面山、火打、妙高、金山。
東は黒姫。南に乙妻、高妻、飯縄。西は、北アルプス北部の山々。後立山から槍が遠望された。
笹平には、白山一華の群落が広がっていた。

白山一華

荒菅沢源頭を通過。雪上に幾つかの足跡があった。雪渓を上り下ったのか。４０年前の５月、私は歩きだったが、スキー滑降を目撃したことはある。その連中は、私がヘロヘロで宿に着いた時、既に祝杯を上げていた。その時、随分悔しい思いをしたものである。
片栗畑を左に見て、ひと上りで頂上着。雪が多い分、時間が掛かった。
先客が一名。ラーメンをすすっていた。空腹を覚えた。我々も、朝食の様な昼食の様な食事。腹も減るハズだ。朝食は、３時半だった。

笹平・奥が雨飾山

白山一華の小道

西峰

頂上

食事

北ＡＬＰＳ北部

大葉黄堇

記念写真で下山。笹平に下ると、若い女性二名と会った。新潟側から上って来たという。雨飾山登山は、圧倒的に長野側が多いが、新潟からは珍しい。ルートは、なかなか難しかったらしい。途中、行者ニンニクを少しいただいた。本来、国立公園内で動・植物の捕獲・採取は御法度のようだ。珍しい、大葉黄堇を観察。

雪渓はアイゼンを使用し安全第一で下った。ノーアイゼンで神経を使うより、アイゼンでガンガン下った方が私は合っている。途中、滑った参加者がいた。

雨飾山は、標高差が多くないので下りは楽。大海川に下り駐車場着。全員、無事に終わって良かった。

花もまあまあ多くて、皆にも楽しんで貰えた。雨飾山荘で入浴（７００ー）。宿泊者は無料。
温泉が素晴らしい。長野市から来た方と歓談。Ｍさんは、釣りに行ったが、全く反応が無かったようだ。
帰路途中、飯森の「山人（やまと）」で蕎麦を食べる。熱燗の「白馬錦」サイコー。
馬刺しが無いのが残念。
この時期の、上信越の山は素晴らしい。皆も残雪の山が、痛く気に入った様です。来年も行こう。

行者ニンニク

山人・キノコ蕎麦（Ｇ撮影）

（了）

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　後藤

山行NO　　ＮＯ．１７４２
日　時　　２０１７．０６．１７（土）晴
山　域　　御坂・節刀ヶ岳（１７３６ｍ）北尾根～鬼ヶ岳（１７３８ｍ）北尾根
コース　　芦川・入沢大橋７：３０－１５４６ｍ峰９：２５－節刀ヶ岳１０：０６～２０－金山—鬼ヶ岳１０：５８－鬼ヶ岳北尾根入り口１１：１０－水ノ沢山１２：１３～２５—林道下１３：１２—入沢大橋１４：００
標高差　　上り　入沢大橋約８００ｍ～節刀ヶ岳１７３６ｍ＝約９３６ｍ
　　下り　鬼ヶ岳１７３８ｍ～入沢大橋約８００ｍ＝約９３８ｍ
藪漕度　　上り・下り＝０（５段階レベル）上り・下りとも殆どない
参加者　　単独

下部は急登、上部は自然林

以前から狙っていた、御坂山塊北面を攻める。この山域は、興味深い。
同行者なしで、久しぶりの単独行。Ｒ３５８から芦川に入る。
ヘアピンの先で、芦川オートキャンプ場に向かう。
程なく、小さな「入沢大橋」。ここが出発地。

出発地

車道から、モーレツな急登を進む。
ひと上りで、標高点・１０８４ｍ。地図では西から点線があるが、道は無かった。
途中、白樺が何本かあった。自然のものだろうか。
更に厳しい上りが、標高点・１５４６ｍまで続く。
直下に西から杣道が伸びていた。ただ、出発地が何処なのか不明。分かればこの道は使える。
１５４６ｍまで、今日の上りで一番厳しかった。
１５４６ｍは、風通しが良く、明るい気持ちが良い平坦地だった。
春蝉が鳴きだした。
一定の気温になると鳴くようだ。

白樺林

１５４６m峰

更に快適な尾根を上る。
藪は全くない。
ある程度、上られているのか。

前方が節刀ヶ岳

ドウダンツツジ

節刀ヶ岳

前方の空に、節刀ヶ岳が見えた。
間もなく頂上着。残雪の富士山が見事。
前橋の方が食事中だった。私も空腹を覚え軽く食べて、ビアー本。旨い。

バックスキンの靴

オジサンは、素晴らしいバックスキン（裏革出し＝本来のバックスキンは、意味が違う）の靴だった。
今時、この手の靴は貴重品。ひと昔前、バックスキンは流行った。
大事にしていて、好天時しか履かないそうだ。
オジサンは話好きだった。やおら、タバコを出した。最近は見ない「わかば」だった。
緑色のパッケージが印象的。３２０－と安いから吸っているという。
プカプカやっていたら、後続の若い衆が「臭いからヤメロ」と苦言。
二人で肩をすくめて笑ってしまった。
その間、外人さん、年配者か到着。

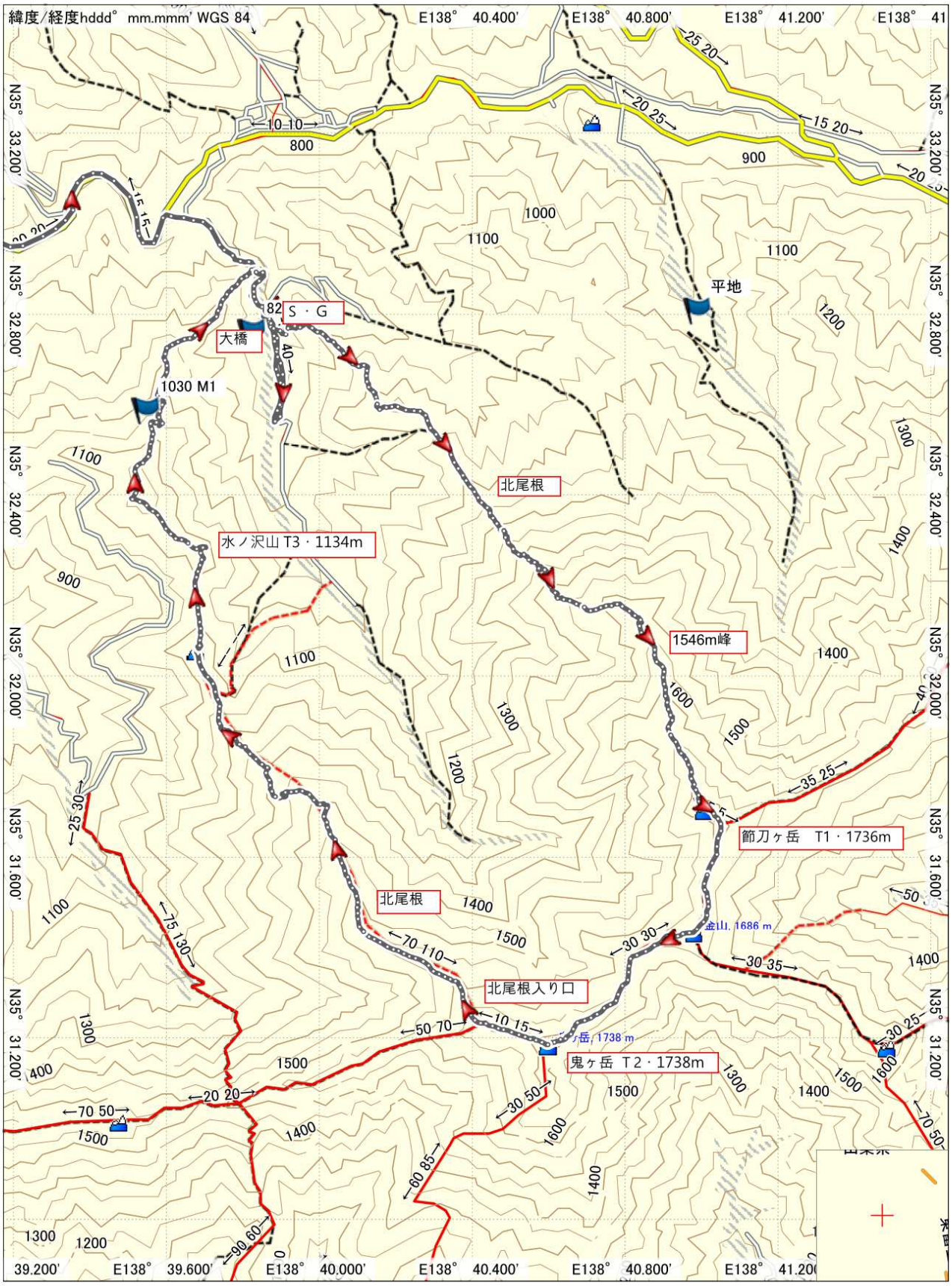
オジサンと分かれ、再び一人旅。
明るいイイ感じの稜線を進む。陽光・新緑・青空・風・春蝉・草花・・・。
どれも躍動感に満ちていた。素晴らしい日本の山々。幸せだ。
鬼ヶ岳着。誰も居ない。
少し下り、北尾根に入る。入り口に「通行不能」の看板。「不能」と「不可能」は違うかな。
「不可能」は、下れない可能性があるが、「不能」は、個人差がある。
なら、行きましょう。

結果は、藪はなく、問題なかった。
ただ、一箇所、尾根が曖昧になる１３００ｍ付近が難しかった。
ＧＰＳがなかったら、迷ったかも。
ま、北北東に下っても問題はないが、北尾根を末端まで歩く観点から、それは面白くない。
これは、こだわりである。
途中、ヤマツツジが見事。

ヤマツツジ

水ノ沢山

下り切れば、水ノ沢山。立派な、山名表示板があった。明るく静かな頂。
水ノ沢山（１１３４ｍ）は標高点の山。先に三角点の１１６７．５ｍ峰がある。こちらも、立派なピークだが、何故、こちらが水ノ沢山ではなかったのか疑問。
小休止し、遅い昼食。もう一本、ビアをいただいた。再び下山。
モーレツな急下降。
林道が見えた。ところが、ノリ面がコンクリで下れない。お役所は登山者に配慮がない。
少し右手に回り込み、やっと林道に降りる。
再び急下降。車道が見えて帰還。ちょっと上って、入沢大橋。
ひとつ、課題は終了した。　（了）



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

0 m 250 m 500 m 750 m 1000 m

2017/06/18 8:24:17

GARMIN.

裾野麗峰山の会・山行報告書

文・写真　後藤

山行NO　　ＮＯ．１７４３
日　時　　２０１７．０６．２３（金）～２４日（土）
山　域　　八ッ・硫黄岳（２７４２ｍ）・横岳（２８２９ｍ）
コース　　１日目＝下土狩４：００―須玉ＩＣ―清里―本沢温泉・下駐車場７：０９―軽トラック乗車ー上の駐車場７：３５―本沢温泉８：４５―夏沢峠９：５８―硫黄岳１０：５８―硫黄岳山荘―横岳１２：００～１３：１３―硫黄岳山荘１３：３５―硫黄岳１３：５８―夏沢峠―露天風呂１５：２７～４４―本沢温泉１６：００（泊）
標高差　　上り　下の駐車場約１６００ｍ～横岳２８２９ｍ＝約１２２９ｍ
　　下り　　〃
参加者　　後藤、峰田、加藤、合谷

ウルップ草・九十九草の稜線

梅雨の晴れ間を狙って出掛けた。以前から行きたかった本沢温泉に向かう。
本沢温泉は、登山を始めて５０年以上経つが初めて。
天気がハッキリしなかった。当初、土曜日登山だったが、金曜に上り、本沢温泉泊とした。
本沢温泉入り口の下駐車場には３Ｈで着いた。天気は清々しい晴天。早くも春ゼミが五月蠅い。
林道を５分歩くと、下から軽トラックが上って来た。女子が声を掛けると「乗って行く？？！！」の返事。遠慮なく乗せて頂く。
ドライバーは、埼玉から温泉にやって来た、３４歳のＡ沢クン。中々の好青年。上の駐車場まで、軽トラは、唸り音で頑張ってくれた。これで約１Ｈ助かった。
気持ち良い道を進む。小屋手前には、九輪草群落、筬葉草（おさばぐさ）が咲いていた。

Ａ沢クン

彼は一級造園技能士だった。現在は独身。年上の彼女がいるそうだ。明日仕事があるので、宿泊せず日帰りとのこと。イッパイやりたかったが残念。感謝の気持ちで、温泉代をカンパした。
Ａ沢クンと小屋で別れ、夏沢峠に向かう。登山者が少ないのか、とても上り易い道が続く。途中、標高

九輪草

笈葉草（おさばぐさ）

本沢温泉

２１５０ｍ、日本最高地・露天風呂「雲上の湯」を俯瞰。小一時間で夏沢峠。小屋は閉まっていた。硫黄岳に向かう。出だしは急だった。
森林限界に達すると、西風が強く寒かった。ジャンパーを羽織った。単独の若い女性が抜いて行った。

見事なケルンが点在していた。これだけのモノを作るには、相当労力が掛かっただろう。

夏沢小屋

見事なケルン、バックは天狗岳

硫黄岳頂上は、東京の集団登山の高校生で賑やかだった。賑やかを通り越して、五月蠅かった。
好天も相まって、余程、楽しかったのだろう。
教師と思われる方が、「煩くて申し訳ないですね」と言った。
硫黄山荘を通過し横岳の上り。御山の豌豆（おやまのえんどう）が沢山出て来た。
鮮やかな濃い青紫。群青色と呼んでも良いだろうか。

平らな硫黄岳

御山の豌豆

頂上直下の鎖場を上る。
右下の崖に九十九草（つくもぐさ）が咲いていた。まだ、小ぶりで時期は早かった。でも、今回も見れて良かった。頂上でやや遅い昼食。腹が減った。畑のキュウリが美味かった。枝豆も美味かった。夏は、これだから嬉しい。何処かのオジサンと会話。
頂上の向こうに良いウルップ草があるという。九十九草は、既に「遅い」というが正論だろうか。
オジサンは、以前スマホで撮った「正しい」九十九草を見せてくれた。
食事が終わり、南のコルに行く。ウルップ草がキレイだった。ただ、まだ小粒。盛期はもう少し先。
横岳に上り返して下山。
硫黄岳の上りは、「新呼吸法」でスイスイ。

ウルップ草

まだ、ゾロゾロ上って来る。最近は平日でも登山者が多い。これも時代か。
夏沢峠でツアー登山と会った。総勢３０名ほど。８割は女性。若い方も多かった。
露天風呂上まで下って来た。
オバサマが三名入っていた。我々が上から眺めているとは知らない様子。でも、遠目で問題はない。
我が三名は小屋に下ったが、私は露天に入った。
オバサマ方は既に出ていた。湯加減は、熱からず温からずでサイコー。ただ、後ろが崖で、落石が起きそうで、呑気に入っていられない。落石止めの柵が欲しいところ。
イイ気分で小屋に戻り、先ほどのオバサマ方と庭でビア。夕食の五時半までやった。

赤岳と阿弥陀岳

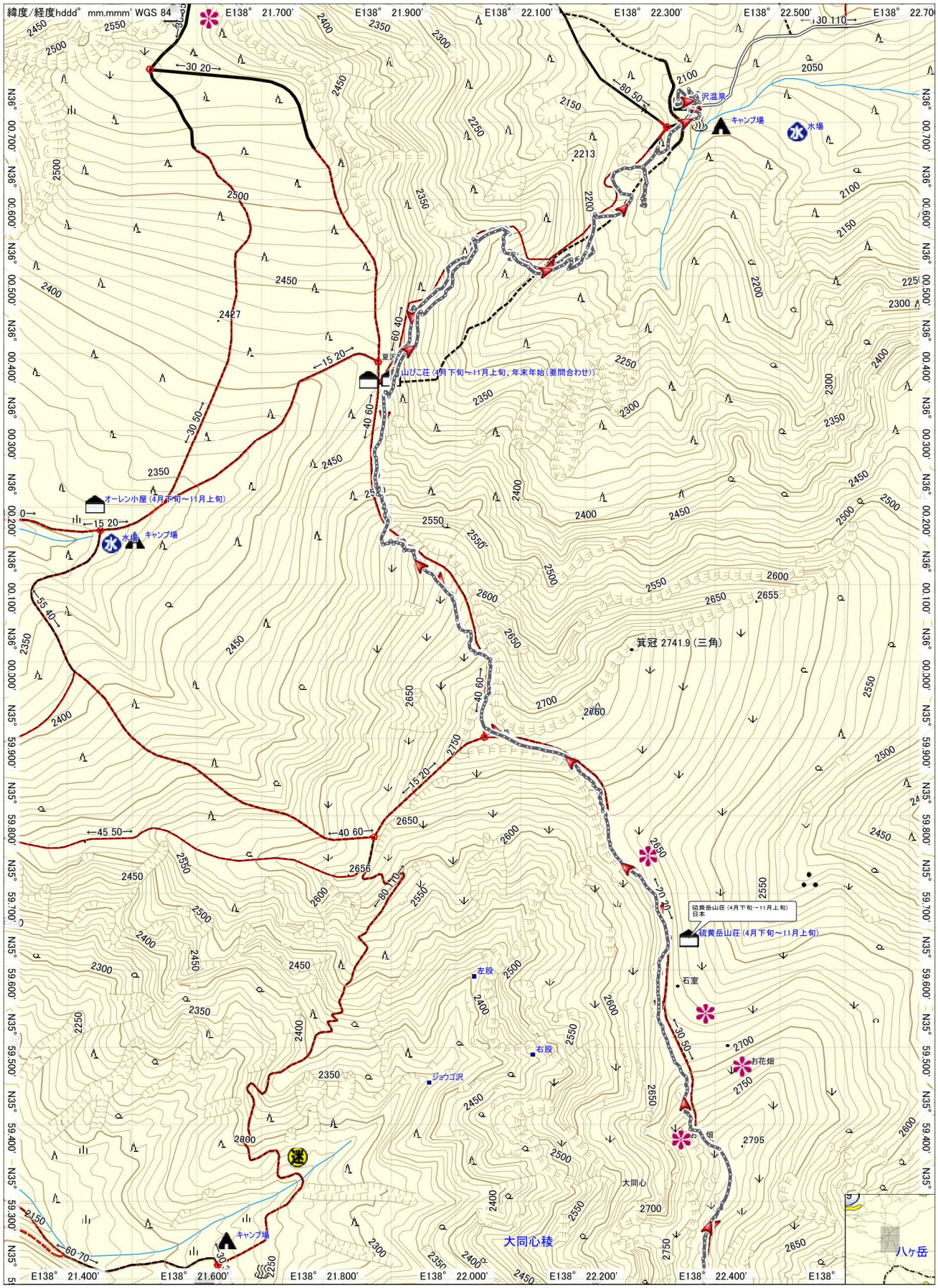
２０１７年１月

日本最高地・露天風呂

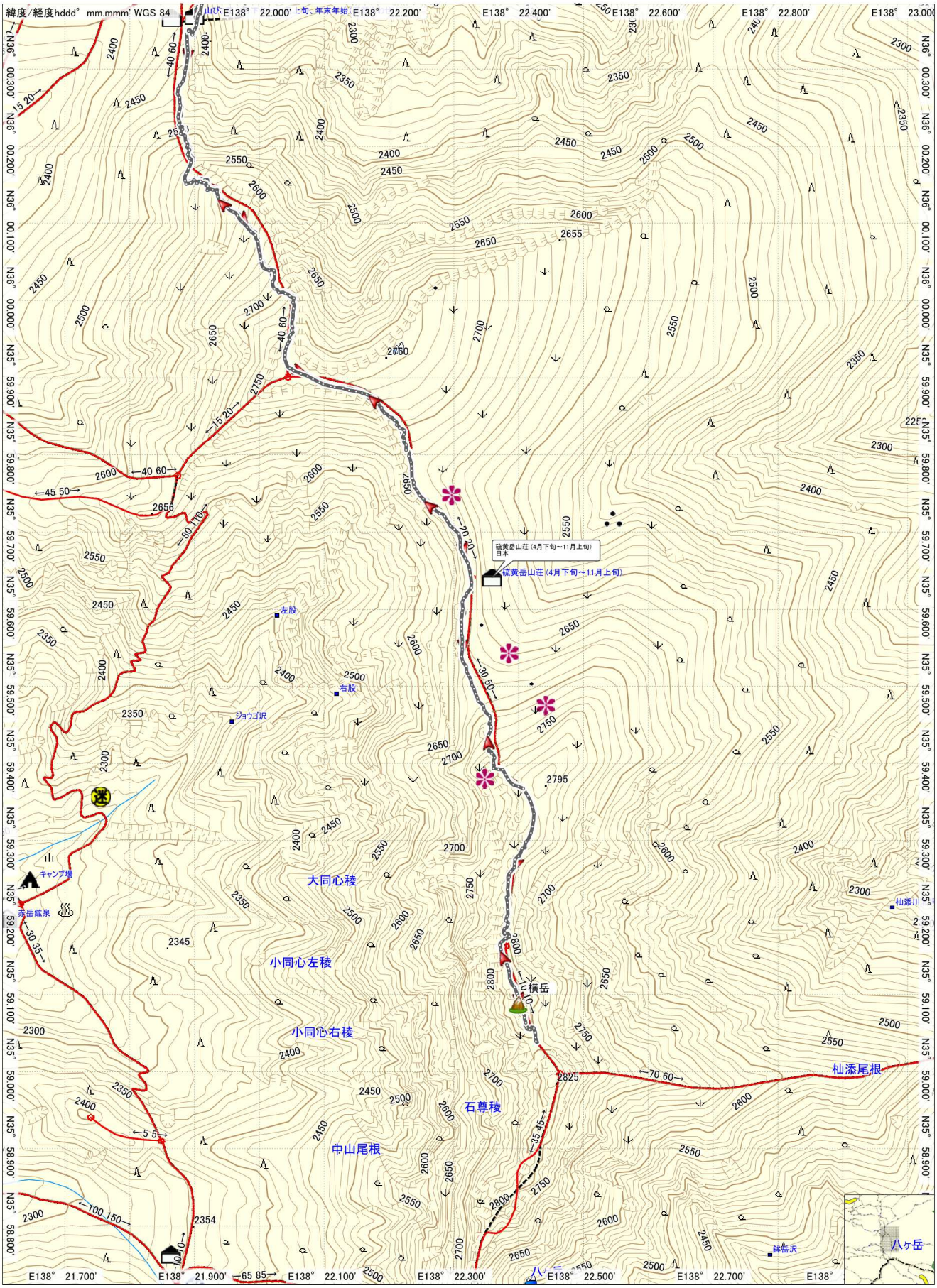
庭で交流

夕食

小屋は、個室にした。相部屋は、暗く閉塞感で不快。
内風呂は、夕方は熱かったが、朝は、蓋を開けてくれてあったので丁度良かった。
泊まらない場合は、露天＝６００ー、内風呂＝８００ー。
もっとも、露天は無断で入ってもチェックできない。食事はまあまあ。味噌汁は美味かった。
ビアは、３５０ｍｌ＝５００ー、日本酒＝５００ー。数種類から選ばせてくれる。濁り酒＝デキャンダーで２０００ー。
２日目は、遊びながら帰る。清里の「伊予」ビアをやり、ピアノを弾いた。最後に、「たかねの湯」に入る。偶然、富士のＳ夫妻にバッタリ。六名全員、先日の熊野古道参加者だった。昼食を食べ昼寝して分かれた。　（了）



2017/06/25 15:44:21



Japan Topo 10M Plus V3
CanvasMapple Co., Ltd 2014
Garmin Corporation 1995-2014

2017/06/25 15:44:21

GARMIN.

７月号・終わり